

*** Zeiss 製 Polarisations-Sonnen-Prisma nach Colzi について再び**

アーカイブ室新聞 (2012年10月4日第647号) に「太陽観測用ハーシシャルプリズム収蔵」という記事を書いた。そしてアーカイブ新聞 (2017年2月20日第985号) に「Zeiss 製 Polarisations-Sonnen-Prisma nach Colzi」という記事を書いた。第647号に書いたハーシシャルプリズムは、「Zeiss 製 Polarisations-Sonnen-Prisma nach Colzi」について書いたものであったが、その時は先輩の入江氏から「太陽観測用ハーシシャルプリズム」という名前で渡されたものであった。第647号を書いた時点ではよくわからないで書いたので、第985号ではハーシシャルプリズムというものについて調べ、「Polarisations」とあるから、この器械は偏光を使った太陽眼視用のアタッチメントであろうと、もう少し構造を詳細に書いた。その記事を書くと同時にドイツにいる小平桂一氏に、この器具について調べてもらうメールを送った。小平さんからわずか1日を経て返事のメールが届いた。それには以下のように記されていた。

「調べてみましたら、1900年頃に売り出された、光学技術者 Colzi と Zeiss の考案による「太陽観測用・偏光プリズム接眼装置」と分かりました。その前にも Herschel の考案になる「太陽観測用プリズム接眼装置」と言うのが売られていましたが、それは小望遠鏡の接眼部に、直視ではなくプリズムを一個入れて直角に折り曲げて接眼鏡を付けて覗き込むもので、いずれも減光フィルターが使えるようになっています。偏光式は直角に反射させるプリズム部分を工夫して、縦・横の偏光成分によって反射率が大きく異なるようにして、黒点や日食時のコロナなどの構造を浮き立たせる工夫がされています。偏光顕微鏡というのが今でも使われていますが、同じ原理のようです。

古いカタログや写真としては残っていますが、ドイツに本物が在るかどうかわかりません。Zeiss 工場のあるイェナなど、旧東ドイツ地区は戦争で破壊された町が多いので、ひょっとすると貴重な残存品かもしれませんね。」

どうやら、なかなか貴重なものを収蔵していたようである。「nach Colzi」がわからなかったが、「Colzi」は考案者の名前であった。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp